

平成 28 年度 静岡大成中学校 学校評価書

重点目標	評価項目	具体的取り組み（計画）	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	学校としての反省と改善策	評価点	ご意見
① 授業力を高めて学習意欲を育て、基礎力の定着と自学自習力を高める。	わかる授業を実践し、学習内容の定着化とともにそれを活用する力を育てる。	各教科の効果的な学習方法を教授し内容を理解させる。また、その知識をアウトプットする機会を設ける。	B	各教科の授業はもちろんのこと、テスト勉強の方法について学活でも教授した。スリーライトクラスではアウトプット中心の授業を行い、学力の定着に努めた。	B	・中学は、授業公開や研究授業を積極的に行い、保護者や同僚から多くの意見を聞いていると聞く。授業力の一層の向上をお願いする。
	授業規律を整え、落ち着いた学びの環境を作る。	始業・終業のあいさつと机上や机周りの整理整頓を徹底させる。	A	年度初めに確認した「イスを机の中に入れ、机の左側に立ち挨拶をする」ルールが時間の経過と共にうやむやになってしまった感がある。年間を通じて徹底させたい。	A	・授業評価アンケートは主観的と言われるが、全教員を比較すると客観的な状況が見えると聞く。本年度はより容易に授業評価ができるよう、マークシート方式からパソコン入力方式に変更したとのことであるが、授業改善等に積極的に役立てていただきたい。
	研究授業・公開授業に積極的に取り組み、授業力の向上に努める。	授業公開・研究授業を通して指導力を養い、生徒が学ぶ楽しさを実感できる授業を実践する。	B	授業公開や研究授業については積極的に取り組むことが出来た。生徒が学ぶ楽しさを実感しているかどうかという点では改善の余地がある。	B	・生徒の2極化は難しい問題であるが、生徒の底上げのため、本校の特色であるスリーライト（スターライト、サンライト、トワイライト）システムのさらなる工夫を望む。
	生徒による授業評価を真摯に受け止め改善に努める。	生徒の評価から自分の授業を振り返り、課題を確認して改善のための努力をする。	B	授業評価は「授業力」を向上させるためにもっとも効果的なツールと捉えている。生徒の生の声を参考に、今後も「わかる授業」「できる授業」に取り組んでいきたい。	B	・成績処理についてはダブルチェック体制をとっているとのことであるが、成績処理に係るミスはあってはならないものであり、是非、慎重、丁寧をお願いしたい。
	スリーライトクラスの充実に努め、目標を達成できるように取り組む。	スリーライトクラスの質を日々向上させ、生徒間の競争や励まし合いの中で目標達成のための学力をつける。	B	本校の教育システムの売りである「スリーライトクラス」の更なる充実に力を注いだ。しかし、生徒の学力に二極化が見られる中で、底上げをやり切れなかった。	B	・タブレットを使うことにより、板書時間の短縮や立体的な授業が可能となっているが、ノートに書いて覚えてきたことが書かなくなることにより、知識の定着に問題もあると聞いている。様々な方法を検討していただきたい。
	級別テストや朝学習の充実に図り、計画的に取り組ませる。	学習意欲や基礎学力の向上を目的とし、級別テストや朝学習に計画的に取り組む重要性を理解させる。	A	朝学習（級別テスト）については、毎日担任がプリントを用意し取り組ませることができた。が、特に1年生の一部生徒のやる気を引き出すことに苦慮している現状がある。	A	・この2、3年かけて、教員にタブレット等の活用力及び授業への応用力を醸成してきたとのことであるが、是非、ICT化の中で、多くの教員がICT設備を使いこなせるよう努力をしてもらいたい。
	校務電子化に伴い、データ入力責任を持って処理する。	成績処理・学籍作成において、入力ミス等により教員・生徒・保護者への迷惑や不信感とならないようにする。	A	成績処理については、教員間のチェック体制が整っており生徒へ配布したあとの入力ミス等の報告は一切なかった。	A	
	ICT教材の授業活用を推進する。	タブレット等における視聴覚教材やデジタル教材を積極的に導入し、ICT教材を使った授業推進に努める。	B	中学校舎は、wi-fi環境が整い、全てのクラスにモニターが設置されているため、iPadのデジタル教材を中心に各教科で積極的にICT授業の推進に努めた。	B	
② 心身を鍛え何事にも粘り強く果敢に挑戦するたくましい生徒を育てる。	生徒会活動や部活動などを通して、集団への帰属意識を育てる。	生徒会活動や部活動を通して、体力・技術及び精神力を鍛えるとともに、挨拶や礼儀など正しい縦のつながりをつくる。	A	さまざまな学校行事や部活動においては、意欲的に取り組む姿が見られた。しかし、特に男子生徒の上級生が後輩を指導するという意識を高めることができなかったことが残念である。	A	・中学では、先生よりも先輩を見て行動することが多い。その意味では、上級生が後輩を指導する意識を高めることは十分意義がある。努力をお願いしたい。
	委員会活動や学校行事などを通して、生徒の自治意識の向上を図る。	行事や活動の意義を理解させ、主体的に参加させる。また、クラスや学年の一員としての役割を与え指導する。	B	生徒個々に与えられた責任や役割を果たそうとする姿があらゆる場面で見られた。特に自然教室（生活訓練）では、2年生のリーダーシップには頼もしさを感じた。	B	・運動が苦手な生徒もいる。多様性の尊重という意味においては、運動部ではない自然科学分発足は評価できる。
	運動・スポーツを通して、自らの健康を保持促進させる実践力を養う。	心身ともに健康を保持増進させるために、主体的に運動やスポーツに関わるよう働きかけをする。	B	今年度から自然科学部を発足させたことで、全校生徒が運動部員という状況ではなくなったが、体育や保健の授業では健康の保持増進への意識の高さが見られた。	B	・地域防災の参加率は極めて高い。社会性を育むための一助としてもらいたい。
	地域や学校外活動への参加を通して社会性を身につけさせる。	社会の一員として自覚を持たせるとともに、大人とのコミュニケーション能力を身につけさせる。	B	地域防災では8割以上の参加率であったが、朝早くから夜遅くまで学校で活動する中で、学校外での活動は少なく、大人との接し方の指導が必要だと感じている。	B	・資格の取得という事実は、生徒の自信に繋がる。検定に向けての指導や補習もたいへんであろうが頑張っていたいただきたい。
	資格取得に励み、挑戦する意欲や物事をやり抜く力を育てる。	資格や検定取得に積極的に取り組ませるだけでなく合格するためのバックアップもおこなう。	B	英検や漢検、数検などさまざまな検定の合格に向けての指導や補習をおこなった。英検は卒業までに全員3級取得をほぼ達成し、2級合格者も出すことが出来た。	B	

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった

重点目標	評価項目	具体的取り組み（計画）	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	評価点	評価点	ご意見
③ 生徒一人ひとりの能力と適性が最大限に生かせる進路実現に努める。	第1学年は、自己の適性や将来への希望を生かした進路実現計画をつくる。 第2学年は、目標達成のための学力の充実と、保護者への確かな進路情報の供給。 第3学年は、目標達成のため最大限の能力を発揮させ、進路・自己実現を図る。 また、進路情報や知識の習得に努め、生徒や保護者に的確な情報を伝え、進路実現に向けた支援体制を強化する。	三年間の進路指導の流れを理解・熟知し、生徒の個性や保護者の考えを尊重した進路指導を心掛ける。また、生徒・保護者との信頼を深めるために定期的に面談をおこない、進路決定に至るまで意思の疎通を十分に図る。 さらに、生徒一人一人が自主的に自分の進路について考え、準備ができるよう、様々な入試説明会や学校説明会の情報を提供し、参加を呼び掛ける。長期休暇中には卒業生を招き、先輩方の中学時代の過ごし方や現在の高校生活の話をお聞かせすることで、在校生の「気づき」を促す。	B	各学年の発達段階や進路に対する意識を考慮しながら、指導することができた。特に、今年度の2年生は明確な進路目標を持っている生徒が多く、各公立高校のオープンスクールに参加する姿が見られた 夏休みには10名以上の卒業生が来校し、3年生だけでなく1.2年生に対してもアドバイスをしてくれた。受験だけでなく日々の学習に対する意識を変える良い機会となった。 3年生については、全員が2校以上の説明会に参加させた。 夏休みの三者面談を皮切りに、定期テストや外部模試の結果が出るたびに本人・保護者と密に連絡を取り、志望校を決定した。 1年生のうちから、「気づき」を促す方策を考えたい。	B	・卒業生から話を聞くことは、最も身近な経験者から進路に関するノウハウを聞くことである。10人からの卒業生が来校するのはとても良い伝統ではないかと思う。是非続けてもらいたい。 ・説明会に2校以上参加させている。進学校に多くの生徒を送り込んでいるが、異なる学校の様子を聞き、比較することは進路決定に大いに参考になる。これからもよろしく願いました。
④ 基本的な生活習慣と規範意識を確立し豊かな人間性を養う。 「衣を正し、時を守り、場を静め、礼をつくす」	3マナーアップ指導を心掛ける。	「登下校時のマナーアップ・授業のマナーアップ・校内でのマナーアップ」を常に指導していく。	B	「授業の掟」に従い、授業態度や生活態度については常に指導し続けた。しかし、そのマナーが身につけているかと言えば、1年生の数名に苦慮している。	B	・中学生は、心身ともに難しい年頃であり、その指導には苦勞されていると思うが、是非、粘り強く指導に当たってもらいたい。
	社会や家庭・学校のルールの遵守を指示し反社会的行為の未然防止に努める。	ルールやマナーについて、生徒・家庭・教師それぞれが真摯に向き合い自覚していく中で信頼を築いていく。	B	ルールの遵守についてはおおむね出来ているが、対人関係、特にクラスメイトに対する言動について思いやりに欠けるものがあり、根絶していきたい。	B	・説明会や見学会での明るいきはきとした挨拶は、アンケートにもその素晴らしさが語られていた。是非、これからも願いたい。
	挨拶の励行、品位ある服装や態度を身につけさせる。	大きな声で自ら挨拶をすること、本校の生徒として小学生が憧れるような服装・立ち振る舞いを身につけさせる。	B	挨拶の励行については生徒会が中心となり、全校で取り組んだ。見学会等で来校された方々のアンケートにも本校生徒の凛々しさに対するコメントが多く寄せられた。	B	・本校では、朝、携帯電話を学校が預かるということだが、犯罪に巻き込まれる危険性もあり、特に学校外での使用方法については、学校全体として、ルール決めでしていただきたい。携帯でのトラブルは、生活面だけではなく、勉強面にも影響がでる。
	健康管理、規則正しい生活習慣の確立とともに遅刻者撲滅に向けて取り組む。	「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨し、自分で時間をコントロールする資質を身につけさせる。	B	生活実態調査ではほぼ全員が朝食を食べているという結果が出た。しかし、早寝の部分については下校時間が遅い、宿題やゲームなどを理由に実行できていない生徒もいる。	B	・SNSやLINEについても、携帯電話と同様、中学校として、時間帯の制限や禁止時間等を決め、保護者がそれを熟知するように説明する等の対策を講じてもらいたい。
	SNSやLINEなどの情報伝達手段の使用についてのマナーを指導する。	SNSやLINEに潜む危険性について理解させ、生徒の中に加害者はもちろんのこと被害者も出さない。	B	「ケータイ安心教室」に加え、「情報」の授業の中で、SNSのマナーについても指導した。最近は保護者の意識も高くなってきており、大きな問題は起こらなかった。	B	・生徒の指導を一人ひとりの先生に任せるのではなく、教員全員で育てる意識を醸成しているとのことであるが、担任の放任へのリスクよりも、教員の孤立化の防止の観点からも、この取り組みを進めて行きたい。
生徒の変化に気を配ると共に、教員間で常に情報を共有できる体制を作る。	クラス担任や教科担当だけに任せるのではなく、生徒一人ひとりの成長に教員全員が責任を持って関わっていく。	A	職員室では常に生徒の様子や指導についての会話が飛び交っている。「教員全員で」という意識が強くなりすぎて、担任の放任につながらないか心配でもある。	A		
⑤ 生徒や保護者が誇りや充実感の持てる教育を実践し、外部に効果的に発信する。	PTA行事・地域交流に積極的に取り組む。	PTA行事・地域交流に積極的に参加し、保護者や地域の方々との信頼を深めるとともに生徒の活躍を外部に発信していく。	C	PTA行事や懇親会について、中学部の教員はクラス担任を中心にほぼ全員参加することができた。しかし、地域交流については具体的な取り組みは出来なかった。	B	・地域交流については今一つであったが、PTA行事には、全員が参加しており、保護者と有意義な交流が図られている。
	教職員研修を通して、教員としての資質向上を目指す。	初心を忘れることなく、常に向上心を持って教師としてのスキルアップを目指す。	B	若手教員が多く、校内研修については意欲的に臨んでいるが、授業や部活などで多忙な中、外部の研修会に参加する時間的余裕がないのが残念である。	B	・生徒募集のため、教員一人ひとりが広告等であるという意識の下、説明会等への参加を促す媒体としても有効なHPに先生が多数出演しており、個々の教員の意識の高まりが見受けられる。頑張ってもらいたい。
	本校の情報を外部に発信する広報活動に全職員が力を合わせて進める。	教員一人ひとりが広告塔であるという意識を持ち、生徒募集につながるような活動をおこなう。	A	本校HPの「今週の大成」には、中学部の先生方の有する情報やデータが随時使われている。生徒会や部活動でも積極的に外部で活動し知名度を高めることが出来た。	A	